佐藤 俊介　  
Shunske Sato

プロフィール

ヴァイオリニストであり、指揮者、室内楽奏者、ソリスト、指導者でもある佐藤俊介の多様さは、彼の多才で臨機応変な性格を反映している。世界各地のピリオド楽器アンサンブルやシンフォニック・オーケストラを指揮し、ソリストとしても出演。

2013年から23年まで、オランダ・バッハ協会(<http://www.youtube.com/bach>)の音楽監督兼コンサートマスターを務め、2019年9月から10月に行われた、同管弦楽団の日本ツアーを成功させた。

2011年からはコンチェルト・ケルンのソリスト、指揮者、コンサートマスターを務めている。

オーストラリア・ブランデンブルク管弦楽団、東京交響楽団、ハーグのレジデンティ・オーケストラ、セビーリャのオルケストラ・バロッカなどから客演指揮者として定期的に招聘されている。

2013年からアムステルダム音楽院の教授としてヒストリカル・ヴァイオリンを教えている。

録音も「パガニーニ: 24のカプリースop.1」では、パガニーニの作品を世界で初めてガット弦とバロック・ボウを使った歴史的奏法で録音した。最新盤は「J.S.バッハ：無伴奏ソナタ＆パルティータ（全曲）」。

2010年、ライプツィヒの第17回ヨハン・セバスティアン・バッハ国際コンクールで第2位および聴衆賞受賞。出光音楽賞、S&Rワシントン賞受賞。2019年度 第61回毎日芸術賞、第70回芸術選奨 文部科学大臣新人賞を受賞。

　2023年１0月